

1

2009. 9. 7 発行

全教栄養職員部 〒102-0084 東京都千代田区二番町 12-1

全国教育文化会館

Tel 03-5211-0123 Fax 03-5211-0124



第19回 全教栄養職員部定期大会が開催されました。

8月1日(土)午後1時より京都社会福祉会館で第19回大会が開催されました。すべての議案は満場一致で採択され、1年間の総括と方針が確認されました。今年は、11の組織から43名の代議員が出席し、17の発言で活発な意見交流ができました。新しい組合加入の報告も多く大変嬉しいスタートとなりました。

各県の発言



- 埼玉**
- ・ 自校直営の中学校を老朽化した給食センターに吸収するという動きがあり、その闘いの中でセンター勤務の栄養士が組合加入。
 - ・ 帝京大学薬学部の上野正利先生を講師に「ファイトケミカルってなに？」の学習会実施。女性部学校では「イソフラボンたっぷりメニュー」の実習をして参加者に好評でした。

- 埼玉高**
- ・ 栄養教諭採用試験早期実現のため一筆署名を実施。多くの応援をもらいながら自分たちで行動を起こし頑張っている。
 - ・ 来年パレットスクール(単位制)1校が誕生。給食調理業務が民間委託。委託反対!と、若い3名が仲間に入った。

- 東京**
- ・ 今年4月、全都で13名の欠員(2校に1名配置)都教委交渉を行い配置要請をした。9月にも都議会要請・都教委要請をおこないます。
 - ・ 東京は栄養教諭を「食育リーダー」のリーダーとして各区市に1名で16名配置。(全国の約1割の栄養職員を有している東京としてはあまりに少ない)採用に関しても、新採12年以上、58歳未満と条件があり受験資格も奪われ、2単位のみしか認定講習も実施していない。しかし74%の人が栄養教諭免許を取得していて、免許取得者の83%の人が自費で免許を取得していたことがわかった。さらに、栄養教諭の配置を都教委・都議会に強くはたらきかけていきたい。
 - ・ 退職者が増えている中、若い人を学習会や交流会に誘い4.5月に3名、6月に3名の新しい仲間を迎えることができました。これからも、声をかけていきたいと思います。

- 京都**
- ・ 2月、市教委が突然3校を4月から民間委託にすると発表。理由は臨時調理員が定着しないということ。市は緊急避難であって民託の方向ではないと言っているが、食材や手作りこだわってきた京都市の給食が引き継がれなくなる可能性が高まってきている。今後もねばり強く運動を続け、民間委託が広がらないよう、頑張っていきたい。
 - ・ 京都府は、2006年度よりほぼ全員栄養教諭になった。しかし、勤務実態は多忙化。2008年には、栄養教諭の職務内容について申し入れ、2009年には専門部交渉も行った。特別支援学校寄宿舎のある学校の栄養教諭複数配置も要求。より豊かな学校給食をめざす京都

連絡会で6月「地域の給食要求交流」を実施。大成功。

大阪

- ・ 08年度より栄養教諭への任用替え実施、希望者のほぼ半数が栄養教諭となった。大阪府は賃金カットや評価育成システムによる賃金格差があり、人によっては栄養教諭になったことで賃金が下がった人もいる。中学校給食については、スクールランチという弁当方式に補助がでるが市町村の受入も少なく中学校給食の実施はほど遠い。
- ・ 大阪市では、「青年フェスティバル」という青年向けの教育講座やレクレーションを行っている、新規採用の人を誘うなかで、新しい仲間が増えました。栄養教諭で採用されたことで、泊を伴う学校行事への参加も強要されたりしている様子なので、今後も様子を聞きながら良い方向を探っていきたい。

奈良

- ・ 年3回の県教委交渉で、栄養教諭の任用の拡大や、すすんで採用試験を受けられるような条件整備を要望している。大淀町の栄養職員が2名から1名の削減予定だったが組合の活動や住民要求で1年の期限付きだが2名を残すことができた。来年度も継続できるよう運動したい。

兵庫

- ・ 希望者のほぼ全員が栄養教諭になった。職務内容はほとんど変化ないが、センター勤務の栄養教諭は負担増。栄養教諭の新規採用は教諭と同じ45歳まで。新型インフルエンザに伴う休校措置で、授業時間確保のために1学期の終業や2学期の始業が変更となっている。

和歌山

- ・ 5名の新しい組合員を迎え、若い人からの新鮮な息吹をもらっている。民間委託に関しては、ついに単独校にまで進んできた。委託はもちろん反対だが、実際委託校で働いていると子どもたちには美味しい給食を提供したいと頑張ってしまう、これで良いのだろうかと自問自答する毎日。また、センター勤務の栄養士の悩みの声が多く聞こえています。

高知

- ・ 高知の栄養教諭採用試験は、一般の教員採用試験と同じ内容。せめて、経験者の採用枠を分けてほしいと要求したが県は、「そんなひいきはしません」と回答。今後も現職の希望者全員の栄養教諭への早期採用を要求していく。また、栄養職員の臨時職員は3年したら1年切れるため、実務経験3年という県の条件があるので、栄養教諭の免許取得には最低5年かかる。このことで新しい仲間が増えた。

広島

- ・ 今年度、学校給食未経験の委託業者となり、安全でおいしい給食にはほど遠いものとなった。2ヶ月たって、やっとスムーズに行くようにはなったが、来年度他校にかわるという話もあり不安。入札価格だけで業者を決定するのではなく、何らかの条件をつけることはできないだろうかと皆さんの知恵を聞かせてほしい。栄養教諭の採用については、続いて県に要望していきたい。

佐賀

- ・ 特別支援学校の民間委託をすすめるために、55歳以下で栄養士免許のある調理員を「学校栄養職」という話がある。寄宿舎食も担当している栄養士の待遇の要求を実施。2年前から県立で栄養教諭の採用があり喜んでいるが、定時制給食の存続や特殊学校の民間委託問題など課題も多くある

【萬重】での交流

<役員紹介>

部長	金井 多恵子 (京教組)
副部長	中村 扶美子 (都教組)
	猪瀬 里美 (埼教組)
常任委員	川野 朋子 (大教組)
	中川 千世(高知県教組)
	高雄 尚子 (和教組)
	壽原 とみ子(都教組)
担当中執	中村 尚史
担当書記	松村 弥生

今年の交流会は、京都の皆さんにお世話頂き京都でも一流の萬重さんのお料理に舌鼓をうちながらの楽しい交流となりました。萬重の若いご主人がお座敷に来てくださって、京都での子どもたちへの味覚の授業や会席料理の体験など実践されているお話も聞かせてもらえました。

学習会報告

折り紙で作った可愛いトトロもお土産に頂き、京都の

午前中は分科会、午後は講演で盛況のうちに

終わりました。



第1分科会 食教育

司会 猪瀬 ・ 記録 中川 （参加者 33 名）

レポート

- ①「作って・食べて・つながる仲間—保護者・地域・子ども—」大阪 石川友美
- ②「“エプロンシアター”元気になるたべもの」東京 小林清子

大阪からは、学校・家庭・地域との連携による食育の推進についての発表でした。4年前からの取り組みで、全教職員を巻き込み、各学年ともにPTAの方や地域の自治会の方、調理員さんなど色々な方を講師に体験型の学習を取り入れることで、地域とのつながりが深まり、また給食の残菜率もとても低くなっているそうです。その他にも給食委員会など様々な取り組みも話されました。フロアーからは、素晴らしい内容に感激する声とともに、取り組みを成功させるための具体的な内容について質問がありました。全教職員が関わって取り組みをすることの重要性を再確認しました。

東京からは、エプロンシアターの紹介でした。赤にはアンパンマン、黄にはピカチュウ、緑にはケロロ軍曹のキャラクターを使い、楽しく三色分けが理解できる内容になっていました。食べものが口から入って「うんこ」となって出てくる様子なども取り入れていました。最後には、アンパンマンの替え歌「食べるよろこびソング」をみんなで歌いました。楽しいだけで終わらないように、しっかりと伝えたいことを自分の中でおさえつつ、効果的に教材を使っていく必要があることをみんなで確認しました。若い栄養士もたくさん参加していましたが、先輩からのたくさんのヒントや、元気をもらえた分科会でした。

第2分科会 合理化

司会 金井 記録 高雄 （参加者 21 名）

レポート

- ①「地域の給食要求交流会の報告」 京都 木村啓子
- ②「佐賀での合理化」 佐賀 行正節子
- ③「民間委託業者について」 広島 山本奈緒美

京都からは、自治労連や保護者の人たちとの28年間の取り組みベースがあるからこそ実施できた地域の給食要求交流会の報告がされた。まさに継続は力なり！重みのある報告だった。佐賀からは、民間委託の現状とアンケート調査から見てきた入札・契約上の問題点などが報告された。入札時期の問題やプロポーザルによる書類選考により業者の実績と現状とがあわないなど、選定委員会で意見を出すなど取り組みが報告された。広島からは、新しく学校給食未経験の業者が入ってきた問題点が出され、「業者に問題点があった時にどうするのか？」など参加者からもたくさんの意見が出された。また、定時制では給食が存続できにくくなってきている問題について報告がありました。

第3分科会 障害児学校

司会 星名 記録 川野 （参加者 5 名）

レポート

- ① 佐賀県立金立養護学校 佐賀 山上益充

レポーターは、栄養教諭になり異動、前任校とはちがう肢体不自由児校に配置されました。摂食障害に配慮した食材選びには、同じ食品が続いてしまうなど苦労しています。特別食（5段階）に加えて、寄宿舎が併設されているため、4食（朝昼夕と特別食）をまかされているなかでの毎日の様子を報告していただきました。アレルギー食、先生方との連携、子どもたち一人一人を大切にしていくとりくみなどじっくり話げできました。栄養教諭になり義務制の学校から支援学校に行くことになった奈良の方からは、支援学校での数値目標のむずかしさなどがだされました。「生きる力」として「食べる力」をつけることが大切、子に応じた指導の大切さなど確認しあいました。参加者が少なくさびしいかなと心配しましたが、とても深まり充実した時間でした。

レシピの交流

今年もたくさんのレシピが集まりました。「レシピの内容も楽しみなのですが、書き方も参考になります」「各県のレシピ参考になります。」「いつも嬉しいお土産です。」という声などが寄せられました。

講演「食育を農業・歯・生活から考える」

講師 山崎 万里さん

(参加者 51 名)

ヒトの体にとって、最も大事なところは「胃腸」であり、1番はじめに作られる内臓は「腸」である。子どもは親が思ったように育つのではなく、食べさせたように育つ。育てる＝気をかける、目をかける、ことばをかける、手をかける。体と生活の管理のできる子は心と性の管理ができる。大便是、体がくれる「大きな便り」であるため、とても重要である。大学生に健康調査を実施したところ、生活の場での「食べる、出す、寝る」の実態が、授業態度、学業成績、落ち着き、持続力、集中力と深く関連していることに、学生自身の気づきが見られた。

日本は副菜をすべて手に入れることのできる風土をもっている。そして人間の「歯」から食べるもののバランスも決まっている。【臼歯：前歯：犬歯の本数が4：2：1＝主食：副菜：主菜】

主菜中心ではなく、季節の野菜を中心に考えられる日本型の食事は、農家ではあたりまえのことである。食育＝食農教育である。様々な内容の中から「食」の大切さ、そして「食」は体やこころを育て、人間をつくると言うことに納得できるお話でした。2時間あっても足りないほどの内容で、もっと聞きたいと思える講演でした。



参加者の声

☆ 分科会について

- ・ 各地の取り組み、具体的な話が聞けて、ヒントがたくさんつまっていました。
- ・ 京都の28年もの活動の継続されているお話、すごいな❑と思いました。
- ・ 体温を測り、朝食内容と照らし合わせる調査に驚きました。
- ・ 他の障害児学校のお話を聞くことができとても良かったです。

☆ 講演について

- ・ 人の発生から食べ方・体の声を聞くという方法・・・とても納得できました。
- ・ 明日から“管”の管理をしようと思いました。子育てしたくなりました。。
- ・ 自分の周りから、うち運動を広げていきたいと思いました。
- ・ 土台の農業・漁業を無視した中での国の食育基本法制定に疑問を感じます。

☆ 全体のご意見・感想

- ・ 初めての参加だったのに、あたたかく迎えてくれて何より嬉しかったです。
- ・ 地方では分からない、国の動きを知ることができた。
- ・ 新しい考えたかやいろいろな経験等を聞かせてもらって、明日から頑張ろうと思いました。
- ・ 各地の状況、情勢が分かって良かった。知恵のある先輩、キラキラの若い人、とても刺激になりました。

☆ 交流会

- ・ 一生に一度行けるかいけないかの高級料亭に連れて行ってもらえて良かったです。準備等本当にありがとうございました。来年も楽しみです。
- ・ お料理とってもおいしかったです。
- ・ お料理だけでなく、ご主人のお話がとてもよかったです。
- ・ 京都の交流会は、個人では行けないようなところにいけて楽しみです。